



日議総委発第13号
令和5年11月24日

日高市議会議長 鈴木健夫 様

総務福祉常任委員会
委員長 松尾万葉香



所管事務調査報告書

総務福祉常任委員会は、下記のとおり研修視察を実施したので、その概要について報告いたします。

記

1 実施年月日 令和5年10月11日（水）～10月12日（木）

2 調査事項

- (1) 千葉県木更津市 オーガニックなまちづくりについて
- (2) 千葉県茂原市 まちづくり条例について

3 派遣委員等

- (1) 委員 松尾万葉香 加藤将伍 近藤沙織 加藤大輔 鈴木健夫
田中まどか 山田一繁 森崎成喜
- (2) 随行人 金子砂知子

4 視察地の概要

(1) 千葉県木更津市

- ・人口：136,419人（令和5年10月1日現在）
- ・面積：138.90平方キロメートル

木更津市は、千葉県の中西部に位置する商業中心都市。古くから港町として栄え、重点港湾の木更津港を有する。首都圏整備計画（第4次首都圏基本計画）により業務核都市に指定され、東京湾アクアラインを中心とした都市開発が進められる。アクアラインの着岸地である金田地区は、都心や東京国際空港へのアクセスが良くなり、三井アウトレットパーク木更津などの大型

商業施設が進出し、かずさアクアシティのようなニュータウンの整備も進んでいる。名産品としては、東京湾で獲れるのり、あさり、ハマグリなどの海産物があげられる。

(2) 千葉県茂原市

- ・人口：87,007人（令和5年5月1日現在）
- ・面積：99.92 km²

茂原市は千葉県のほぼ中央、首都圏から60km圏内に位置し、市の大部分は九十九里平野であり、市西部の山地は房総丘陵によって形成されている。昭和27年に6町村が合併し、千葉県下で10番目の市として茂原市が誕生した。天然ガスやヨードなどの地下資源に恵まれ、多くの企業が進出し、外房の中核都市として成長を遂げてきた。平成25年3月には首都圏中央連絡自動車道（通称：圏央道）が開通し、成田・羽田の両空港へのアクセスも一段と向上した。

平成23年7月、茂原七夕まつりマスコットキャラクターとして「モバリん」が誕生し、平成24年11月、茂原市施行60周年を機に茂原市マスコットキャラクターに就任した。茂原七夕まつりをはじめ、茂原市からのお知らせや各種イベント等のPR活動を行い、茂原市の魅力を全国に発信している。

5 視察内容

(1) オーガニックなまちづくりについて（千葉県木更津市）

(1) オーガニックなまちづくりとは

平成28年3月に策定した「木更津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「地域経済の活性化」と「若者の獲得」を車の両輪として戦略的に推進するため、まちづくりの新たな視点として「オーガニックなまちづくり」を掲げた。

「オーガニック」は、「有機的な」と訳され、生体のように細胞がつながりあい、連携・補完しあいながら全体を形成している様子を「まち」のあり方になぞらえ、「地域社会を構成する多様な主体が一体となり、人と自然が調和した持続可能なまちとして次世代に継承しようとする取組」を「オーガニックなまちづくり」と定義した。

(2) 理念体系

～「循環」と「共生」、その上に成り立つ「自立」～

豊かな自然、産業、農林水産物等 本市が有する資源の地域内の「循環」と、多様な人、地域、企業、自然や全ての生き物の「共生」それらがあつ

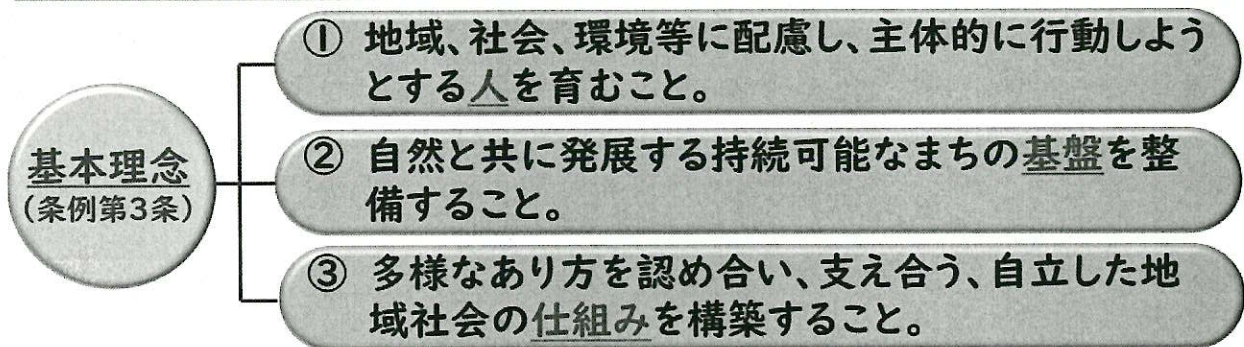
て、大都市に依存するのではなく、特徴的な要素の上で、経済的・文化的に「自立」したまちをつかっていくことができる、というように、環境省の提唱している「地域循環共生圏」の考え方を大きく取り入れて体系化している。

【オーガニック】 (条例第2条)

■ **持続可能な未来を創るため、地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする考え方。**

【オーガニックなまちづくり】 (条例第2条)

■ **地域社会を構成する多様な主体が一体となり、本市を、人と自然が調和した持続可能なまちとして、次世代に継承しようとする取組。**



※木更津市提供資料より

(3) 「SDGs未来都市」の選定

2023年、SDGs達成に向けて、優れた取組をする自治体「SDGs未来都市」に、選ばれた。(千葉県内では市原市、松戸市に次いで三例目)

(4) 地産地消・食育の推進に向けた有機米の生産促進

農業従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加や有害鳥獣被害の深刻化、昨今の米価の値下りなど、農業を取り巻く課題に対応すべく、農業の成長分野として期待される有機農業の推進に向けて、生産者、J A木更津市、関係団体との協力のもと、2019年度より有機米の生産に着手。始めは、1反程度ならと慣行農家5人が一部転換を行い、今では14農家。年々有機面積が増えて来ている。

生産した有機米は、市内公立小・中学校(全30校)の学校給食に提供。地産地消や食育の推進に大きく寄与するとともに、農業者の生産意欲や所得向上にも寄与。

(5) 経済循環を高める電子地域通貨アクアコインの普及促進

君津信用組合及び木更津商工会議所との連携のもと、域内の経済循環を高める情報インフラとして、「電子地域通貨アクアコイン」を2018年より導入。「新型コロナウイルス感染症」対応の長期化や昨今の物価高騰への対策として、アクアコインを積極的に活用したポイント還元策を展開。また、コミュ

ニティの活性化に向けて、市民活動等にポイントを付与する「らぶポイント」の導入や市民の健康増進活動にポイントを付与する「らぶFit」も導入。さらには、行政分野への活用として、市の各種手数料や市税の納付にもアクアコインを活用するなど、未来につながるまちづくりのインフラとしての機能を持たせている。2022年度のアプリインストール数28,816件、利用額136,808万円。

(6)企業と「包括連携協定」・「オーガニックアクション宣言企業」を登録
市民サービスの向上や地域課題の解決、また、地方創生の加速化に向けて、パートナーとなる企業等との包括連携協定を積極的に推進。現在14社。

また、「オーガニックなまちづくり」を実践し、応援団となる「オーガニックアクション宣言企業」の登録を促進。現在82社。

(7)条例制定に至ったきっかけや経緯

渡辺市長が就任し、大都市の模倣ではなく、木更津らしいまちづくりをしたいと、移住者やデュアラも含む住民らと意見交換している中で、「オーガニックというキーワードが出てきた。

市民からは、特に抵抗はなかったが、「分からない」という反応や、木更津市は有機農業を進めていくのか？という誤解があった。だんだんと理解や協力が得られるようになり、8年目になってまちにも浸透してきた感があるとのこと。

(2) まちづくり条例について（千葉県茂原市）

(1)まちづくり条例とは

市民、市及び議会がそれぞれの役割を果たしながら、市民自治の推進及び確立を図り、全ての市民が住んで良かったと思えるまちを実現することを目的とする。市民主体のまちづくりを目指す、行政運営における包括的な条例。

(2)まちづくり条例について

平成 27 年 9 月 24 日公布、平成 28 年 4 月 1 日施行
茂原市議会基本条例と同日施行されたのは稀有な事例である。（流山市について県内 2 例目）

(3)条例制定の経緯

平成 20 年より市内で、まちづくりの基本原則やルールを明らかにする「自治基本条例」について、策定の進め方や先進自治体の事例の調査研究を進めていた。

平成 23 年、人口減少や少子高齢化の課題、そして東日本大震災もあり、ボランティアにおける市民参加を積極的に推進することを目的として、「共生と共創のまちづくりもばら市民塾」が開催された。

その後、茂原市自治基本条例を考える市民の会において20か月37回の会議を経て、平成25年9月に「まちづくり条例に関する基本的な考え方（提案書）」を市長に提出。

本提案書を受け、市では「まちづくり条例策定協議会」を設置し、14か月18回の会議を経て、平成27年3月に市長に答申を提出、平成27年9月に「茂原市まちづくり条例」が可決された。

(4) 協働のまちづくり推進事業

大きく3本柱として進めている。

① 市民活動団体の認定及び支援

公共性・公益性の高い事業を実施しようとする市民活動団体を認定し、支援を行う。

② 地域まちづくり協議会の認定及び支援

自治会や地区社協、PTA、民生委員、老人会、商店など、多様な主体によって構成され、おおむね小学校区を単位とする地域のまちづくりに取り組む協議会を認定し、補助金等の支援を行う。自治会の高齢化や加入率の減少などの問題から、地域づくりをすすめる主体となることが期待されている。

③ 協働提案事業

市民活動団体の知識や経験を生かし、行政との協働による課題解決の提案を受け、協議を重ね、事業を実施する。

(5) ①による認定市民活動団体（令和5年4月1日現在）

現在、市内に活動拠点を置き、まちづくりに取り組んでいる団体が33団体あり、（ex: ご当地検定、ロケーションサービス、災害の復旧サポート）令和4年度、3団体に補助金が交付された。（予算300千円）

※団体の一例紹介 ～もばら検定「ガス博士」実行委員会～

千葉県茂原市及び茂原ブランドの知名度の向上を目的として、特産品ともいうべき「天然ガス」に焦点を当てたご当地検定『もばら検定ガス博士』を実施している。

「こどもガス博士」・「ガス博士 修士号」・「ガス博士 博士号」に分かれ、博士号の試験には、論文（1次）、口頭試問（2次）があり、天然ガスを生かした茂原市が発展し続けるための提案が期待されている。

現在こどもガス博士が10名、修士号が59名、博士号が6名、試験を突破している。

(6) ③の協働提案事業における取組事例

「茂原かるた」で観光のまちづくりをめざそう事業×商工観光課
「茂原ふるさとかるたを通して、茂原市の魅力を再発見」を目的として、
市内小中学校へ読み札、絵札の募集を行い、郷土かるたを作成した。

(7)その他：市民活動団体交流会「まちびとカフェ」

団体同士の交流の機会を設け、それぞれの活動の更なる充実を図ることを
目的とし、交流会を開催している。（令和4年度10回開催）

本交流会で「市民活動カレンダー」を作成し、行事日程の共有、告知を実施している。また、年に4回「市民活動だより」を発行し、各団体の告知やイベントのお知らせを行っている。

以上の通り報告いたします。